

前回までの会で出た主な意見

海の展示について

- ・はく製のみでは魚たちの生きている姿を感じられないので、実際に動いている映像を見られるようにすると良い。(例：QRコードや3D映像など)
- ・境港の海や魚に関する展示スペースがない。
- ・深さや生息地などでレイアウトを考え、海を表現する展示にしてほしい。
- ・2階の額に入ったはく製は子どもも大人もよく見ずに通過してしまう。
- ・展示の音声ガイドがあると良い。

くらしの展示について

- ・現在のスペースでは、「海」「くらし」の2つのテーマを両立して充実させることは難しい。特に「くらし」の展示は民具の種類が少なく、部分的にしかない。見て、当時のくらしが分かるような展示はできない。
→「海に関するくらし」「漁業に関するくらし」に絞ってはどうか

他機関との連携について

- ・関係施設との連携
海：水産試験場、水産振興協会
くらし：地域おこし協力隊、農業公社、県立博物館
その他：境港市観光協会、市民活動団体(当館利用団体)、学校、図書館
水木しげるロード、水木しげる記念館、おさかなロード
- ・最近は新型コロナウイルスの影響で、教育旅行は近場でとの傾向がある。
県中部・東部の学生を誘致できないか。(旅行会社との連携が必要)
- ・施設間の連携のみならず、市内のイベント(例：桜まつり)や、年間行事(七夕・ハロウィン等)と関連させた企画を行う。
- ・学校や図書館との連携(例：総合技術高校の学生とイベントを企画・運営、夏休みの時期に図書館と連携をして自由研究と絡めた企画を行う等)
- ・新しくできる市場(令和4年完成予定)に、魚や漁業に関する展示スペースを作るので、当館とも連携させたい。
- ・当館のスペースは限られているので全部を抱え込むのではなく他機関と連携し、分担することが大切。(境港で獲れる魚や、それがどのように私たちに届くのかというストーリーがわかる等、点ではなく線になるように)

にぎわい作りについて

- ・展示は変わり映えがしないので、一度見て満足してしまう。
- ・観光客のリピーター確保は難しい。市民のリピーターを確保するために、何をするか。
- ・体験型のイベントや、食べる・買うをプラスできると良い。
- ・イベント(ワークショップ等の体験もの、映像設備を使った学習スペース等)
(例：お魚スケッチ(館内のはく製)、海や暮らしについての絵本読み聞かせ、
おさかな検定 in 海くら(市内でやっているものを当館で)、
海くらから海釣り(館内で勉強し、海釣りへ)、海くらクラフトデー等)
- ・みなと丸、スタンプラリー、写真スポット等は子どもたち(親)にも人気である。

建物の改修について

- ・第2展示室の上部は、設計上床を敷いて利用できる。(建築基準法をクリア)
- ・駐車場部分については、台数を減らすことは検討できるが、完全に増築エリアとしてしまうことは難しい。
- ・階段の手すりや授乳室がない。